海外派遣留学プログラム報告書

（報告期間：2021/09/02　～2021/11/03　）

１．勉学の状況

はじめに簡単に自己紹介をさせていただきます。私は文学部国際言語文化学コース所属の 3 年生で、大学での授業を通して、約 2 年半、スペイン語の文法を学んだり、文学作品をスペイン語で読んだり、会話の練習をしたりと、スペイン語の基礎的な力を築いてきました。大学入学前から外国語を習得したい、という思いで授業に参加し、サラマンカ大学への留学はスペイン語の勉強を始めた当初から視野に入れていました。サラマンカ大学を選んだ理由は、自分の学びたいことが、最適な環境で学べるからです。私は通訳翻訳の分野に関心があり、日本で勉強しているだけでは学ぶことが難しい、ネイティブスピーカーの自然な会話や表現に触れ、スペイン人の国民性や根底にある価値観を、留学を通して理解できるようになりたいと考えていました。サラマンカ大学には翻訳学部があり、スペイン語と日本語の翻訳について学ぶことができます。また、日本語を勉強している学生や日本に留学経験のある学生が多く在籍しており、彼らとの交流を通じて自然な会話表現を身に付け、彼らに日本語を教えることで、通訳の練習ができるのではと考え、サラマンカ大学を留学先に決めました。実際に留学生活が始まり、改めてサラマンカ大学を選んで良かったと感じています。

留学生活が始まって 2 ヶ月が経ちましたが、段々とこちらの生活にも慣れ、現在はサラマンカ大学での授業を受けながら毎日 2 時間語学学校にも通い、忙しくも充実した日々を送っています。私が前期に履修している授業は英語の授業 2 つ（それぞれ週に 2 回）と、「Gramática para la Enseñanza del Español I」（外国人学習者のためのスペイン語文法教授法）という授業（週に 1 回）です。履修したいと考えていた翻訳の授業は後期に開講されます。スペイン語だけでなく、英語力も伸ばしたいという想いと、スペインでの英語教育に関心があったため、前期は英語の授業を履修することを決めました。日本で受けてきたような、教科書を通して受動的に学ぶ教育とは全く違い、常に意見やディスカッションを求められるので最初は戸惑いましたが、スピーキング能力が鍛えられていることを実感しています。スペイン語文法教授法の授業は、私の在籍する翻訳学部の授業ではなく、文献学部の授業ですが、授業全体の 50%は他の学部の授業も履修することができます。最初の授業数回はスペイン人学生の早口なスペイン語が全く聞き取れず、聞き馴染みのない専門用語ばかりが出てきてほとんど何も理解できないまま授業が終わり、自信を失うばかりでした。しかし、予習復習を繰り返すうちに徐々に授業が理解できるようになりました。この授業でも常に自分の意見を発言することが求められるので、初めは全く授業に参加できないでいましたが、少しずつスペイン人学生の前で意見を言えるようになってきました。スペイン語と日本語の文法の違いや日本の文化や慣習に興味を持ってくれている学生が多いので、たくさん発言できるように引き続き予習復習を頑張りたいと思います。この授業は履修者が多いので、授業に積極的に参加できるように教室の前方に座るようにしています。また、現在は新

型コロナウイルス感染対策で全員マスクを着用しているので、教室後方では教授や他の学生の声が聞き取れません。授業は全てスペイン語ですが、スペイン人学生や教授は本当に親切で常に助けてくれるので安心して授業に参加できます。また、毎回授業後に教授に疑問点を質問したり、スペイン人の友人に質問したりと、理解度を深めるために工夫しています。

10 月中旬からは語学学校の授業も始まりました。同じ千葉大学から来た友人や、他の国から来た留学生らとともに、毎日 2 時間スペイン語を勉強しています。家から少し遠いのでバスを利用して通っています。サラマンカのバスは乗車時に料金を支払い、どこで降りても一律料金です。チャージができ、一回の乗車あたり 0.6 ユーロとお得に利用できるカードを購入しました。語学学校は自分のレベルに合ったスペイン語の授業が受けられるのがメリットですが、大学の授業との両立は難しく、なかなか復習の時間が取れないでいます。

さらに、先週からサラマンカの大学院生の授業の一環で、スペイン人学生が外国人留学生にスペイン語のレッスンを行ってくれるプロジェクトにも参加しています。週に 2 回大学の講義室で行われ、3 から 4 人と少人数で語学学校と同じような授業を受けています。大学の授業、大学院生のレッスン、語学学校と 1 日で全てに参加することもあり慌ただしいですが、スペイン語を学ぶことができる機会に恵まれてとても満足しています。

２．生活の状況

9 月は夜 8 時でもまだ外が明るく、暑い日が続きましたが、10 月半ばにもなると一気に気温が下がり、朝と夜は特に冷え込むので、体調管理に気をつける必要があります。

実は私はスペインでの留学が始まって 1 ヶ月で引越しをしました。最初は翻訳学部の学部棟から徒歩 3 分のサラマンカの中心地に住んでいましたが、週末は夜中の 2 時くらいまで外が騒がしく、なかなか眠れませんでした。また、教室の外でもスペイン語に触れていたいと思うようになり、たまたま友人に紹介してもらった方の家にホームステイをしています。ホームステイといっても料理は自分で作っているので、シェアハウスに近いような形です。他にホームステイをしている友人は夜ご飯だけ自分で用意をして、あとは作ってもらっているようです。学校からは遠くなってしまいましたが、毎日歩くのは良い運動になりますし、ホームステイは安心して生活できるので引っ越して良かったと思っています。学校から帰宅した後、その日にあったことをホストマザーに話すのですが、単語がわからなかったり、うまくスペイン語で表現できなかったりと、悔しい思いをすることが多々あります。毎日少しずつ、覚えた表現などを使いながらスムーズに話せるようになりたいです。また、最近は料理にはまっています。日本にいた時は実家暮らしでほとんど料理をしなかったので、最初は苦労しましたが、毎週スーパーに食材を買いに行って、作り置きをするのが趣味になりました。スペインは野菜や果物が日本に比べて安いです。近くに八百屋があるので、そこで野菜や果物を調達しています。スーパーや八百屋は、日曜日は営業しておらず、週末にかけて混むので週明けすぐに買い出しに行くようにしています。

それから、毎週木曜日の夜には日本語を学んでいるスペイン人学生との交流会にも参加しています。そこで仲良くなった友人と、先日ハロウィンパーティーを行いました。留学前は新型

コロナウイルスの影響もあって、アジア人差別を心配していたのですが、サラマンカには日本語を勉強していたり、日本に興味を持ってくれる学生が想像以上に多く、友人を作りやすいと思います。

勉強面も生活面も満足度の高い 2 ヶ月でした。しかし、スペイン語の力が劇的に伸びたという実感はまだないので、今月は予習復習の時間を十分にとり、引き続き楽しみながら自己研鑽に努めたいと思います。

海外派遣留学プログラム報告書

（報告期間：2021/11/04　～2022/02/18　）

１．勉学の状況

前期の授業が終わり、あっという間に留学生活も残り半分を切りました。私が留学しているサラマンカ大学では、１月に期末試験がありました。テスト期間中は基本的に授業がないため、テスト勉強に時間を費やすことができました。前期に履修した科目は翻訳学部と文献学部でそれぞれ開講されていた英語と、外国人のためのスペイン語文法教授法（以下 ELE と記します）です。ELE の授業は個人的に一番好きな授業で自分自身のスペイン語力の成長も感じられた科目だったので、掘り下げてお話ししたいと思います。前回の報告書でも触れましたが、スペインの授業スタイルは、学生が積極的に意見を発言し、教授や他の学生と盛んに議論を交わします。ELE では、スペイン語の文法を外国人に教えるという立場から分析する授業で、授業内ではグループワークも行いました。スペイン語の文法で、外国人学習者が間違えやすい文法事項を１つ選択し、なぜそれが間違えやすいのか、どのように教えればいいかという点について２、３人でグループを作ってまとめるというものでした。私はスペイン人の女の子と一緒に、スペイン語の冠詞について扱いました。希望者は授業内でプレゼンテーションを行うことによって成績に追加点をもらえるということで、せっかくの機会なのでプレゼンテーションにも挑戦しました。実際に私の発表部分は 5 分程度でしたが、発表が終わった後には大きな達成感を得ることができました。テストについては、記述式と聞いていたので、合格できるか不安でした。また、千葉大学の三年次論文の提出期限も重なっていたので慌ただしくしていましたが、テスト日の１週間前から徹底的に専門用語を覚えたり、授業の内容を復習したりしました。試験前の最後の授業内で提示された試験の練習問題も解き、よく授業を復習した甲斐あって期末試験に合格することができました。ちなみに、私の場合は事前に教授に確認をとって電子辞書の使用の許可をいただきましたが、授業や教授によっては留学生でも辞書の使用が認められないこともあるようです。初回の ELE の授業では教授のスペイン語が全く理解できなかった私ですが、プレゼンテーションを行ったり、授業中に発言できるようになったり、気がつかないうちに少しずつスペイン語力の成長も実感できました。また、この授業を通してスペイン語文法の奥深さに気づき、帰国後に執筆する卒業論文ではスペイン語の冠詞や時制などについて考察したいと考えています。

既に後期の授業が始まり、現在は留学開始以前から履修したいと考えていた「Traducción Directa Japonés（日本語からスペイン語への翻訳）」の授業に参加しています。ビジネスメールや大学の先生宛のメールなど、実用的な日本語をスペイン語に翻訳する練習をしています。スペイン人の学生とグループになって文の翻訳を考えることが多く、その際に、「これはどういう意味？」「この敬語は何？」などと質問を受けます。今まで無意識に使っていた表現でも改めて意味や文法について考えさせられています。スペイン人にスペイン語で、日本語の表現や文法を説明して、それが理解してもらえた時には大きな満足感を得ることができます。外国人に正しい日

本語を教えられるように、今から私も日本語の文法を勉強して、日本語を学習しているスペイン人をサポートするボランティアをできればと考えています。

留学生活も半年が経ち感じることは、“留学とは自分を見つめ直す機会であり、新たな自分に出会うことができる可能性を秘めている”ということです。私は昔から語学が好きで、語学のスペシャリストとして活躍できる通訳者になりたいと考えていましたが、文法を深く研究することも興味深い、日本語を外国人に教えるのもやりがいがある、というように、それまで気がつかなかった自分の側面を知ることができ、将来の選択肢も増えたように感じます。この報告書を読んでくださっている皆さんも、留学を通して新たな自分に出会えることを願っています。最初は興味がないと思っていることでも、機会があれば積極的に挑戦してみてください。

２．生活の状況

年末年始は、スペイン人は家族と過ごすため実家に帰省してしまうので、クリスマスは日本人の友人と一緒にスペイン南部のアンダルシア地方を訪問しました。サラマンカでは何かあれば常にスペイン人の友人に助けを求められる環境だったので、日本人だけでの旅行は少し緊張しました。スペイン南部では、レストランやホテルなどで新型コロナウイルスのワクチンパスポートの提示が求められるとの情報があったので、事前に用意していきました。実際に求められたのはレストラン一軒だけでしたが、ワクチンパスポートがないと入店を断られる場合もあるので旅行先の情報収集をしておいてよかったです。目的のクリスマスイルミネーションも見られて充実した旅行となりました。また、ホテルの受付やレストラン、観光先で現地の方とコミュニケーションをとることで自分のスペイン語力が少しずつ伸びてきていることも実感できました。まだまだ満足できるほどではないのですが、旅行先での経験が自分の自信にもつながりました。

年越しはホームステイ先のホストマザーと、近くに住む日本人の友人と過ごしました。年が明ける 12 秒前からテレビでカウントダウンが始まり、鐘の音に合わせて 12 粒のブドウを食べるというスペインの伝統的な年越しも体験できました。なんだか黙々とブドウを頬張る様子がシュールで、途中で笑ってしまい喉を詰まらせそうになりましたが、なんとか食べきることができました。

後期の授業が始まり新しい友人も増え、毎日充実した生活が送れています。最近では家の近くのジムで運動することが日課になりました。学生は月会費 30 ユーロ（約 4000 円）と日本に比べて安いです。帰国まで残り約 4 ヶ月となってしまいましたが、思い残すことのないようスペイン生活を満喫したいと思います。4 月にはセマナ・サンタという大型連休があるので、スペイン北部にも訪れてみたいです。

（写真は年末に観光したアンダルシア地方の中で、一番お気に入りのマラガという地域で撮影したものです。マラガはクリスマスのイルミネーションで有名なので、是非機会があれば訪れてみてください。）

Málaga

海外派遣留学プログラム報告書

（報告期間：2022/02/19　～2022/06/28　）

1.　勉学の状況

全ての授業を無事終えることができました。後期は日本語スペイン語に翻訳する「Traducción Directa Japonés」と、東アジア社会学「Sociedades de Asia Oriental」の授業を受けました。前期は課題やグループワークが多く、語学学校にも通っていたので首が回らないほど忙しい時期もありましたが、東アジア社会学の授業は特に課題がなく、授業も週に一回だったので、もう１つくらい授業を履修すればよかったと思っています。履修登録期間中であれば取り消しや追加の履修登録が可能なので、十分吟味して無理のない範囲内ではありつつも、興味のある授業は受けられるだけ受けておくと良いと思います。

期末試験についてですが、日西翻訳の授業のテストはパソコンの持ち込みが可能で、試験中にインターネットを利用することが許可されていました。日本語をただ直訳するのではなく、スペイン人にとって自然な表現はどういったものか、日本文化や専門用語についての補足説明が必要かどうかなど、自分で最適な翻訳を考えながら行いました。翻訳する素材自体は授業で扱っていたものとほとんど変わりがなく、授業の内容を復習し、重要なポイントを抑えていれば試験対策としては問題ないと思います。しかし、問題量が多く、スペイン語で自分の翻訳についてコメントを付け加えなければならず、試験終了時間までに見直しをする余裕はありませんでした。正直うまく訳せていたか少し不安でしたが、試験の数週間後に結果が帰ってきて、無事合格できていました。この授業は留学が始まる前から参加するのを楽しみにしていたので、とても満足しています。自分に翻訳が向いているのかどうかを知るきっかけにもなったので、受講して本当によかったと感じています。一方東アジア社会学のテストは選択問題で、中間と期末と合計２回の試験がありました。しっかり授業を復習すれば満点を狙える内容でした。この授業では日本社会についても取り上げられ、西洋の視点から日本を見つめ直すことができ、とても興味深かったです。

次に、留学を通してスペイン語能力がどの程度成長があったかについて触れたいと思います。留学前から必要な文法は全て学び、簡単な日常会話はできるレベルからスタートしました。しかし最初はお店で何かを注文するのも不安で、スペイン語ではなく英語で話をしてしまうという場面が多かったのを覚えています。また、私が留学したサラマンカには、スペイン人日本語学習者が多く、日本語でも彼らと会話ができます。スペイン語で喋るよう意識しないと日本語でしか会話しなくなってしまうので、スペイン語で会話をする意識を常に持つことが必要です。留学開始から 4 ヶ月程度経過した頃から徐々に自分のスペイン語能力の成長に気がつき始めました。スペイン人と話すことに躊躇が無くなったり、授業の内容が以前よりもスムーズに理解できるようになったりと、少しずつ自信がついてきました。しかし、留学後半はスペイン語力が停滞していたように感じます。まず、スペイン人よりも日本人と過ごす時間が増えました。というの

も、スペイン人はオンとオフのメリハリがはっきりしていて、テスト期間中は勉強に集中するためなかなか交流する時間が作れませんでした。一般的にある程度の語学力がついてくると、そこからさらに伸ばすことが困難です。焦らず、帰国後も勉強をコツコツ続けていこうと思います。日本でもスペインで知り合った友人たちと定期的に連絡をとりスペイン語を話す機会を作るよう努めます。

2. 生活の状況

実は私は、留学中に 2 回の引っ越しを行いました。最初は一人暮らしをしていましたが、常に孤独感を感じていたのと、もっとスペイン語を練習する機会が欲しいと考えたため、友人の紹介でスペイン人女性の家にホームステイをしていました。しかし当時滞在していた家から大学キャンパスまでかなり距離があり、毎日バスに乗って移動することにストレスを感じ始めたので、大学近くのピソに引っ越すことを決意しました。一人暮らし、ホームステイ、ピソとそれぞれ経験しましたが、それぞれ求めるものによって何が最適なのかが変わってきます。私は、最終的に一人暮らしは心細いけれど、ある程度プライバシーも欲しいと思っていたので、ピソでシェアハウス、（ピソメイトは基本的に部屋で過ごす）というスタイルが合っていました。私の他にも何人か、住居が合わなくて引っ越しをしていた友人がいるので、自分に合わないと思ったら、我慢せず、引っ越しを考えてみてください。お金と時間は多少かかりますが、結果的にいろいろな経験ができたので、後悔していません。

この 10 ヶ月を振り返り改めて思うことは、サラマンカで過ごした月日は 21 年間生きてきた中で一番濃かったと言うことです。留学期間中に自分自身の中で様々な気づきがありました。授業を通して向き不向きがわかったり、新しく関心を持てる分野も見つかったりしました。後先のことよりも今この瞬間に重点を置くスペイン人の考え方に感化され、過去にとらわれず、未来のことを考えて悩んでいる時間を手放し、今を楽しもうと考えるようにもなりました。さらにスペイン人は他者の目を気にせず、それぞれが自分の好きなように生きているように感じました。私は気づけば今まで何をするにも周りからどう思われるかを気にして、自分の意思に反する選択をしてきたことが多かったように思います。日本にいた時はそれが当たり前で、疑問に感じることすらなかったのですが、スペイン人と対話をする中で常に「あなたはどうしたいの？」そう聞かれます。

スペイン留学で、もちろんスペイン語の能力も向上しましたが、一番の変化を感じたのは精神的な部分です。文化も価値観も違う国で親元を離れて過ごし、初めて自分に向き合えたような気がします。この留学がなければ、今志している大学院進学も考えていなかったと思うし、他者からの期待に応えようと無理をしていたのではないかと思います。コロナ禍で不安もあったけれど、留学に来られたこと、無事帰国できたこと、様々な気づきや学びを得られたこと、本当によかったです。最後まで留学をサポートしてくださった先生、留学生課の皆様、共に支え合った友人、見守ってくれた家族には深く感謝しています。